

市立函館博物館館報サラニッ

SARANIP

No.47 2008.3.31

国宝 土偶



ちよぼないの
函館市著保内野遺跡より出土した 国宝「土偶」

2007年6月、一体の土偶が北海道で初めての国宝に指定されました。

この土偶は1975年8月、南茅部町(当時)で農作業中の畑から小坂アエさんによって発見されました。発見から4年後の1979年には重要文化財に指定され、2007年6月8日、国宝に指定されました。縄文時代の遺物が国宝に指定されるのは3件目、土偶に限っては2件目になります。

作られたのは縄文時代の後期で今から3200年ほど前になります。顎の部分には黒色の、胴部には赤色の顔料が塗られていた痕跡もあります。また、全身に施された精巧な文様は、当時の衣服を知る上でも貴重な資料であるといえます。

国宝に指定された理由として、中が空洞になっているこの土偶は、中空土偶と呼ばれ、高さが41.5cm、幅が20cmと日本でも最大級の大きさ(中空土偶の中では日本で最大)を誇っており、しかも表面の厚さは5mm～7mmと薄手に作られています。また、頭部と両腕を除いて全身がほぼ完全な状態で残っています。

そしてその精巧な作りと写実的な表現が、当時の精神文化を知る上でも極めて価値の高い逸品であると評価されました。

成田 光

平成19年度特別企画展報告Ⅰ 甦る北の縄文ロード—発掘された縄文の世界—

函館市南茅部の著保内野遺跡より発見された中空土偶が、北海道初の国宝になったことを記念して、2007年7月1日(日)より8月19日(日)の期間、市立函館博物館本館において「甦る北の縄文ロード—発掘された縄文の世界—」が開催されました。期間中は10,804人も多くのの方々にお越しいただきました。

7月1日に行われた開会式には高橋はるみ北海道知事をはじめ、土偶の発見者である小坂アユさん等が出席し、知事から小坂さんへ感謝状が贈られました。その後の特別観覧では国宝となった土偶を前に小坂さんが土偶を発見した当時の状況などを語り、皆聞き入っていました。



土偶の見学をする知事と小坂さん



オープニングセレモニー テープカットで祝う

展覧会では、北海道や東北地方各地で発掘された選りすぐりの土器、石器や土偶、ヒスイ製大珠などおよそ1,000点の出土品を展示しました。とりわけ縄文時代に海や地域を渡って流通した土器、土偶をはじめ新潟県糸魚川産ヒスイ、北海道産黒曜石、東北地方産アスファルトなどの伝播にスポットをあてて紹介しました。何千年も前の縄文時代から文化の交流、交易があり、「縄文ロード」ともいえる交易ルートによって盛んにヒトとモノが往来していたことをお伝えできたのではないかと思います。

成田 光

平成19年度特別展報告 「さらば五稜郭の星」第1部「血戦! 戊辰戦争—東北・蝦夷地の戦い—」

五稜郭分館最後の特別展は第1部と第2部の2部構成で開催しました。第1部は7月14日から9月17日まで開催し、期間中18,718名の方々にご観覧いただきました。

第1部では戊辰戦争最後の戦いとなった箱館戦争を中心に、奥羽越列藩同盟と東北戦争について紹介しました。さらに幕末維新の激動の中で生まれ消えていった新撰組と、同時期に結成されながらあまり歴史の表舞台に取り上げられてこなかった新徴組についても紹介しました。

「新徴組と新撰組」のコーナーでは、庄内藩の下級藩士として活動した新徴組の資料や、当館が所蔵する新撰組隊士中島登関係資料を展示しました。中島が描いた「戦友姿絵」には、新撰組ファンのみならず釘付けになって観覧される方が多く見受けられました。

「戊辰戦争と東北諸藩」では、庄内藩・仙台白石藩・南部藩・津軽藩などの奥羽越列藩同盟に参加し東北戦争を戦った藩に関する古文書などを展示しました。

「最後の血戦! 箱館戦争」では、戊辰戦争最後の戦いとなった箱館戦争に関する銃・砲弾・陣羽織・軍服・錦絵・古文書など、館蔵資料を中心に展示しました。閉館後の館蔵資料の行き先を聞かれることもありましたが、これらの資料はすべてではありませんが博物館本館において展示する予定となっています。

保科 智治



展示を見学する子供達



明治2年当時の町並みと兵員配置図

「さらば五稜郭の星」第2部 「さよなら これが五稜郭分館だ! — 収蔵資料一挙公開! 見せます最後の五稜郭—」



いよいよ五稜郭分館最後の日



名残惜しそうに展示を見つめる観覧者

北洋博覧会の観光館を活用した五稜郭分館、昭和30年6月30日の開館以来積み重ねてきた展覧会は40回。開館当初は歴史・美術・考古・自然資料と多彩な資料を展示していた五稜郭分館。その最後の特別展は10月2日から11月30日まで開催し、11,955名の方々にご観覧いただきました。展示では、昭和29年に函館公園と五稜郭公園で開催された北洋博覧会、五稜郭の堀で行われていた採氷事業の様子や五稜郭分館開館当初の活動の様子なども含めて、五稜郭分館に収蔵されている五稜郭築造関係および箱館戦争関係資料をできる限り多く展示しました。その総数は829点を数えました。

期間中、子供の頃に五稜郭で遊んでいた方や五稜郭分館で開催していた科学教室に参加していた方々などが多数訪れ、かつての様子を教えてくださいました。五稜郭分館は閉館となりますが、平成22年度には箱館奉行所も完成し、五稜郭分館の跡地には土蔵と板庫が復元される予定です。生まれ変わる五稜郭にまたお越しいただきたいと思います。

保科 智治

平成19年度特別企画展報告Ⅱ 「アイヌからのメッセージ2007—^{いま}現在から^{あす}未来へ—」



テープカットの様子



展示解説の様子

平成19年度特別企画展・アイヌ工芸品展「アイヌからのメッセージ2007—^{いま}現在から^{あす}未来へ—」は博物館本館を会場に9月2日(日)から10月21日(日)まで開催し、2,522人の方々が入館しました。

本展覧会は、「アイヌ工芸品展」として、平成17年に開催された「アイヌからのメッセージ—ものづくりの心—」の第2弾として、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構との共催で開催しました。当館は一関市博物館(6月23日(土)～8月19日(日))に続き、2巡目の会場として開催となりました。ちなみに、3巡目は大阪人権博物館(平成20年1月8日(火)～3月9日(日))での開催でした。

主な展示はアイヌ工芸作家の作品89点を、伝統を受け継ぎながらもそれぞれの個性を表現した作品を集めた「様々なかたち」、独創性に溢れた感性豊かな作品を集めた「卓越した技」、これからのアイヌ文化を担う世代の自由な表現から生み出された作品を集めた「新しい風」の3つのテーマ別に展示・紹介しました。

さらに、当館では、当館所蔵のアイヌ民族資料のうち、アイヌの人たちが江戸時代から明治時代にかけて使用した生活用具、それも今まであまり展示されていない資料のうち、工芸品の参考になったと思われるモノを中心に展示・紹介しました。さらに、大正時代、「木彫り熊」発祥の地、八雲町で製作された作品についても数多く展示・紹介したことで、初期の「木彫り熊」と、現代の工芸作家による作品との変遷が、時代背景とともに理解でき、楽しい展示になったのではないかと思います。

佐藤 理夫

日口博物館交流5周年を迎えて

2007年7月28日、北東アジアにおける函館市とウラジオストク市の歴史的友好と文化交流の一翼を担う相互の博物館交流を目指し、市立函館博物館と沿海地方国立アルセニエフ博物館との間で博物館姉妹提携が結ばれてから、ちょうど5年目を迎えました。

この間、函館の国際的な文化交流の一翼を担ってきた博物館交流事業は、手探りで博物館交流ながら函館市民、ウラジオストク市民のあたたかいご理解とご支援をいただき、相互の博物館での展覧会やシンポジウムの開催、博物館情報の共有等々着実にその成果を積み上げて参りました。

この様な博物館交流事業の5周年を記念して、2007年7月25日から31日までの一週間にわたり、函館市中央図書館において写真パネル展「博物館姉妹提携5周年 博物館交流の軌跡」を開催いたしました。写真パネル展を開催するにあたり、背伸びしない息の長い博物館交流の推進とフレキシブルな交流のかたちを創造すべく両博物館の熱い思いを託しました。

この展覧会では函館市とウラジオストク市との姉妹提携15周年を迎えた両市の交流の軌跡も交え、これまでの交流事業における展覧会やシンポジウムの開催、博物館情報の交換、共同研究の実施など博物館交流50年の軌跡をおよそ100点の写真パネルでたどりしました。

記念すべき博物館交流5周年を節目に、博物館交流の原点を見据えながら、これまで培ってきた博物館交流の成果を糧になお一層、交流の輪を広げていきたいと考えております。

長谷部 一弘



中央図書館で開かれた写真パネル展の様子

北海道博物館大会が函館で開催されました！

第46回北海道博物館大会が函館国際ホテルを主会場に、「博物館の底力—地域の魅力を引き出し、活かす博物館—」を大会のテーマに掲げ、7月19日(木)と20日(金)の2日間の日程で開催しました。19日は、総会、講演、シンポジウムが行われ、NPOつなぐの山本育夫理事長による講演に引き続き、シンポジウムでは、矢吹俊男小川原脩記念美術館館長の司会の元、山本氏のほか根本直樹北海道教育大学函館校准教授、住吉聡松前町館浜小学校教頭、山内一男NPOはこだて街なかプロジェクト理事長の5人による活発な意見交換が、120名の参加者の前で繰り広げられました。20日は施設見学が行われ、国際ホテルから金森倉庫群をとおり、郷土資料館、北方民族資料館、旧函館区公会堂、博物館本館へと、異国情緒あふれる元町界隈を散策しながらの見学となりました。

佐藤 理夫



講演中の山本氏



施設見学会の様子

平成19年度博物館講座報告

バスツアー 箱館戦争史跡めぐりの旅

平成19年度のバスツアーは、11月に閉館となる五稜郭分館の特別展「さらば五稜郭の星」第1部「血戦！戊辰戦争—東北・蝦夷地の戦い—」にあわせ、箱館戦争の主戦場となった北海道南部を1日でめぐる旅となりました。ご案内は歴史民俗担当の保科智治と佐藤智雄の両名。開催はお盆目の8月12日の日曜日。墓参りに合わせ東京から参加された受講生もいっしょにいました。箱館海戦の主戦場だった七重浜を左手に眺めながらまずは大野二股の古戦場を目指します。この講座、目的地の見学はもちろん、「道南という地域」そのものが箱館戦争の最も重要なkey wordであることを知って頂くために車中でも解説が続きます。バスは箱館戦争の展開を遡るように進み、大野一ノ渡で本日のゲスト、佐々木翼学芸員（北斗市歴史民俗資料館）を乗せ「二股台場跡」へ直行。官軍陣地を中心に、旧街道跡、石碑、遺構を観察しながら佐々木氏の詳細な説明を受けました。いつもは見慣れた中山峠の景色も本日ばかりは箱館戦争当時の遺構や見所にあふれていました。現在発掘調査の進む「館城跡」を見学し、乙部町の「官軍上陸地点」へと向かいます。町中の国道脇にあるこの史跡は、ご存じない方も多かったのですが、宮ノ森公園の駐車場は絶好のポイント。崖下に広がる日本海と、上陸地点となった砂浜に「ここか！」の声が上がりました。昼食は江差の「開陽丸」、見学後早速松前へと向かいます。当時、この季節は船でしか巡れなかった松前道をドライブ。松前では松前城資料館を見学。弾丸跡の残る大手門で記念撮影後に整備の進む松前城二の丸・三の丸を見学。新名所として整備されつつある木古内町のサラキ岬で威臨丸のモニュメントをながめつつ北斗市の「戸切地陣屋跡」を周り函館へ無事帰着。暑い一日でしたが参加者は体調万全。お土産に蟬の脱け殻を持ち帰る方もいっしょにいました。

佐藤 智雄



二股台場 官軍陣地跡にて



松前城大手門前にて

平成19年度博物館講座開催表

【ワークショップ(通年講座)】

No.	講座名	開催期日	参加者数
1	自然観察入門講座-自然の物知り博士を目指そう-	4月22日(日)~3月9日(日)まで年12回	26
2	四季の星空観測講座-函館・四季の星座観測-	5月18日(金)~1月25日(金)まで年4回	23

【単 独 講 座】

No.	講座名	開催期日	参加者数
1	天体観測「春の星座観測」	5月18日(金)	21
2	地域の身近な自然を調べる「浜辺の漂着物を調べてアート体験しよう」(水産・海洋体験プログラム)	6月2・3日(土・日)	9
3	本館展示解説セミナー特別企画展「蘇る北の縄文ロード-発掘された縄文の世界-」	7月1日(日)	26
4	夏休み自由研究「鉄道車両の仕組みとJR見学会」	7月25日(水)	51
5	わくわく科学教室「ドライアイスで遊ぼう」	7月26日(木)	16
6	夏休み考古学講座「遺跡発掘体験」	7月27日(金)	21
7	分館展示解説セミナー特別展「血戦！戊辰戦争-東北・蝦夷地の戦い-」(第1回)	7月27日(金)	18
8	親子で作る「ベタベタアート」	7月28日(土)	13
9	夏休み自由研究「縄文体験-動物の骨で(釣り針)を作ろう」	7月31日(火)	17
10	夏休み考古学講座「勾玉を作る」	8月1日(水)	18

【単 独 講 座】

No.	講座名	開催期日	参加者数
11	「親子で行く今金、太古の旅」(バスツアー) ※台風上陸のため中止	8月3日(金)	-
12	わくわく科学教室「シリカゲルを科学する」	8月5日(日)	24
13	夏休み考古学講座「土器作り(1)・(2)」	8月7・8日(火・水)	30
14	夏休み自由研究「昔の道具を調べよう」	8月9日(木)	19
15	分館展示解説セミナー特別展「血戦！戊辰戦争-東北・蝦夷地の戦い-」(第2回)	8月10日(金)	13
16	「箱館戦争史跡めぐりの旅」(バスツアー)	8月12日(日)	26
17	ナイトミュージアムinはこだて「OKIが奏でるトンコリの調べ」	9月8日(土)	50
18	天体観測シリーズ「秋の星座と中秋の名月観望会」 ※悪天候でも実施	9月7日(金)	4
19	本館展示解説セミナー「アイヌからのメッセージ2007」	9月22・23日(土・日)	30
20	わくわく科学教室「イカを科学する」(水産・海洋体験プログラム)	10月6日(土)	8
21	地域の身近な自然を調べる「函館山に戻るカラスの様子を観察してみよう」 ※悪天候でも実施	10月20日(土)	5
22	冬休み自由研究「蓄音機を鳴らしてみよう」	1月8日(火)	18
23	冬休み自由研究「さし絵に挑戦！」(文学館と共催)	1月10日(木)	34
24	冬休み自由研究「手作りおもちゃで遊ぼう」	1月11日(金)	25
25	わくわく科学教室「もしも原子が見えたなら」	1月12日(土)	16

市立函館博物館五稜郭分館の閉館に寄せて



11月30日の閉館式の様子

五稜郭分館は、現在本市が進めております箱館奉行所をはじめとする特別史跡五稜郭跡復元整備事業の実施に伴い、平成19年11月30日、その役割を終え52年に及ぶ歴史の幕を閉じました。

その足跡を辿れば、昭和29年に北洋漁業の再開を記念し開催された北洋博覧会の観光館を再利用して翌30年6月に誕生したのに始まります。以来、今日まで半世紀の永きにわたり五稜郭の築造や箱館戦争に関する資料の展示・公開を通して、明治維新という日本史上最大ともいえる歴史変革の時代であった幕末から明治期における函館の歴史とその意義を、市民はもとより全国に向けて発信し、何百万人もの来館者から親しまれてきました。

特に、閉館もいよいよ目前に迫った最後の週間に5,000人もの人々が来館し、五稜郭分館との思い出に浸る一方で最後の別れを惜しんだその姿を目の当たりにしたときは、五稜郭分館に寄せる人々の限らない愛着心と惜別の念に触れた思いで深く感動させられました。

五稜郭分館の閉館にあたり、最後の分館長として関係者一同を代表し、衷心より敬意と感謝を込めて、「ありがとう！そしてお疲れ様でした！」の言葉を五稜郭分館に贈ります。

佐藤 克己

平成19年度新収蔵資料紹介

ここに掲載している新収蔵資料は、平成19年4月1日から平成20年2月28日までに受け入れたものです。

○寄贈資料

- ・永寧寺碑拓本（軸装） 1件1点
[函館市中央図書館より移管]
- ・大日本帝国金貨 1件8点
[函館市中央図書館より移管]
- ・オオクワガタ 1件2点
[函館市・河野 隆一 氏寄贈]

平成20年度の主な行事予定

- ・平成20年5月27日（火）～7月6日（日）
特別企画展「函館繁盛記 一街を支えたモノヅクリ」
- ・平成20年7月19日（土）～8月31日（日）
特別展 没後100年「榎本武揚 一箱館戦争の光と影」
- ・平成20年9月9日（火）～9月23日（火）
特別企画展「国宝 中空土偶と函館発掘物語」
- ・平成20年10月9日（木）～11月16日（日）
企画展「アイヌ語地名を歩く 一山田秀三の地名研究から—
2008・渡島／檜山／津軽海峡」
同時開催 企画展「新収蔵資料展」

博物館の機構と職員構成

■市立函館博物館本館

〒040-0044 函館市青柳町17-1

Tel. 0138-23-5480 Fax. 0138-23-0831
http://www.museum.hakodate.hokkaido.jp
hakohaku@museum.hakodate.hokkaido.jp

館長	長谷部 一弘
管理係長	中井 正房
	伊部 則夫
	棚池 房江
	佐藤 恒一
学芸係長	佐藤 理夫(自然)
学芸員	佐藤 智雄(歴史・民俗)
学芸員	霜村 紀子(美術)
学芸員	成田 光(考古・民族)
	山本 泰子

◇函館の歴史や自然、生活道具、函館周辺の考古資料、美術資料を展示

■市立函館博物館五稜郭分館(平成19年11月30日まで)

分館長	佐藤 克己
	富永 隆一
	白幡 隆
学芸員	保科 智治(歴史・民俗)

※五稜郭分館は平成19年11月30日をもって閉館

■市立函館博物館郷土資料館(旧金森洋物店)

〒040-0053 函館市末広町19-15

Tel&Fax. 0138-23-3095

◇旧金森洋物店の明治・大正期の生活道具を展示
詳しい資料の問合せは本館まで

一誌名SARANIP(サラニップ)について—
アイヌ語：シナの樹皮で編んだ袋。
博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。



SARANIP-サラニップ-No. 47 2008. 3. 31発行

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

函館市青柳町17-1 (函館公園内)

Tel. 0138-23-5480 Fax. 0138-23-0831